

〔農場紹介〕

## JA 全農東日本原種豚場 AI センターおよび JA 全農 SPF AI センター

全国農業協同組合連合会東日本原種豚場 亀山賢次

### 1 施設の所在地

- ① JA 全農東日本原種豚場 AI センター  
岩手県岩手郡雫石町上野第5地割上和野 121-3
- ② JA 全農 SPF AI センター  
熊本県菊池郡旭志村弁利 3447

### 2 施設の概要と全農 AI 取り組み

両施設は全農の東西種豚場の内部および管理下にあり、SPF 農場として認定を受けて AI 精液の製造供給を行っています。

全農の AI 取り組みは、平成6年に岩手県北部の秋田県境にあたる雫石町の山沿いの場所にある東日本原種豚場内に、種雄豚飼養規模 44 頭の施設を開設し製造供給を開始しました。

以後、平成8年に熊本県北部の旭志村の西日本原種豚場管理下に、種雄豚 44 頭規模の施設を開設し、全農として東西に施設を開設し全国供給体制を確立しました。

平成11年8月よりさらに普及拡大を目指して、両施設とも新たに施設拡充をはかり現在にいたっております。

### 3 経営概況および施設概況

- ① JA 全農東日本原種豚場 AI センター  
飼養規模：最大 154 頭  
労働力：3 名（製造本数で変化あり）  
製造可能ドース：最大 15 万ドース  
飼養管理方式：豚房はオールスノコ 62 豚房

(1.8m × 2.2m)、ストール 94 豚房 (0.7m × 1.8m)。給餌は自動給餌方式、糞尿はピット方式で糞尿分離し、それぞれ処理（浄化槽、豚糞処理）しています。

飼養品種：デュロック種

施設の概要：豚舎および希釈管理棟（豚舎併設）995.39m<sup>2</sup>

精液状態：チューブ式（80cc 1 ドース混合精液、精子数 30 ~ 50 億）

保存温度：15 ~ 18℃

供給範囲：東北、関東を中心に中部地区まで

製造供給実績：平成6年度 8,000 ドース  
平成7年度 20,000 ドース  
平成8年度 35,000 ドース  
平成9年度 35,000 ドース  
平成10年度 40,000 ドース  
平成11年度 60,000 ドース  
平成12年度 70,000 ドース

### ② JA 全農 SPF AI センター

飼養規模：最大 220 頭

労働力：3 名（製造本数で変化あり）

製造可能ドース：最大 20 万ドース

飼養可能方式：給餌は自動給餌方式。豚房はオールスノコ豚房によるスラリーストック方式で、最終処理は焼却炉で焼却しています。

## JA 全農東日本原種豚場 AI センターおよび JA 全農 SPF AI センター

飼養品種：デュロック種

施設の概要：豚舎 2棟 1,671m<sup>2</sup>，希釈管理棟 1棟 167m<sup>2</sup>，倉庫 1棟 33m<sup>2</sup>，焼却炉 51m<sup>2</sup>

精液形態：チューブ式（80cc 1ドース混合精液，精子数 30～50億）

供給範囲：九州，四国，中国地区中心に近畿地区まで

製造供給実績：平成8年度 20,000ドース  
平成9年度 35,000ドース  
平成10年度 50,000ドース  
平成11年度 80,000ドース  
平成12年度 130,000ドース

#### 4 JA 全農の AI 精液の特徴

##### ① 能力の高い系統豚の精液供給

供給する精液は生産性が高く，肉質に優れた遺伝能力を持った斉一性のある種雄豚群（系統豚）からの精液を利用し，なおかつ受胎率向上のために混合精液として供給してい

ます。

##### ② SPF 豚の精液

両センターとも日本 SPF 豚協会の認定を受けた施設で，精液の生産・製造を行っています。したがって，養豚経営を悩ませている疾病群が精液によって持ち込まれる心配がなく，クリーンな精液を供給しています。

##### ③ 安定した製造体制の確立

供用する種雄豚群は育種改良に取り組み，遺伝能力に優れた種雄群の精液を供給しています。また，AI 製造資材・器材および種付け用具について，安価で優れたものの開発・改良の実用化を常に目指しています。

#### 5 今後の目標

JA 全農東日本原種豚場 AI センター

10万ドース

JA 全農 SPF AI センター

16万ドース



JA 全農東日本原種豚場 AI センター 遠景



JA 全農東日本原種豚場 AI センター 精液処理施設